

令和3年度・4年度 鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実際



知名町立知名中学校

【 目 次 】

I はじめに

- 1 知名町の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 校区の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 学校の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

II 研究の概要

- 1 研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 研究目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 4 研究組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 5 租税教育全体計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 6 研究の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

III 研究の実際

- 1 令和3年度・4年度の租税教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5～ 7
- 2 財政教室における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8～11
- 3 税に関する作品・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12～13

IV 研究のまとめ

- 1 アンケート結果の分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13～17
- 2 成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

V おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

I はじめに

1 知名町の概要

知名町は、鹿児島県本土から約550km離れた南に位置し、奄美群島に含まれる小さな有人島の沖永良部島にあり、人口約5700人が生活する町である。気候は年間平均気温が22度と暖かく、亜熱帯性の気候である。この気候を生かして、サトウキビや花き、じゃがいもを中心とした輸送野菜、葉タバコなどの栽培に畜産を組み合わせた複合経営が主な産業となっている。

また、知名町は歴史的な背景として、文永3年から慶長14年までの約340年間、当時の琉球の北山の支配下にあり、文化や言語・風俗などで琉球の影響を強く受けている。また、慶長14年の薩摩藩による琉球侵略の結果、沖永良部島も薩摩藩直属領となり、住民はサトウキビを原料とした黒砂糖づくりを強いられ、苦しい生活を送ることになった。明治4年の廃藩置県により、薩摩藩の支配から鹿児島県の領域へと移管され、その後、明治41年の島嶼町村制の実施により、沖永良部島は知名村と和泊村に区分された。昭和16年12月第二次世界大戦が勃発し、昭和20年8月に終結したものの、昭和21年2.2宣言により、沖永良部島は3月から祖国日本から行政分離され、アメリカ合衆国の統治下となり、米軍統制下で町制が施行された。昭和28年12月25日のダレス声明により、祖国復帰することが決定し、日本国民として再出発し、現在に至っている。

2 校区の概要

本校区は、沖永良部島の南部に位置し、和泊町と隣接している。海拔245mの大山の裾野に集落が形成されており、15の字集落で地域の行事や活動もそれぞれ行われており、地域全体で子どもを育てる土壌ができています。

本校区内の小学校は、知名、下平川、住吉の3つあり、それぞれ学校の規模・特色ともに異なる。そのため、年3回の小中連携の研修会や年1回の小中高の連絡会を開催しており、学習・交流・連携の場を設け、情報交換などが積極的に進められるよう取り組んでいる。また、家庭や地域の教育文化環境も、それぞれ特徴が見られるが、概して、家庭や地域の学校教育への協力は惜しまない地域性があり、教育に対する関心は高いと言える。

3 学校の概要

本校は、昭和33年4月7日に開校し、今年で創立65周年を迎えている。「精いっぱい」の校訓のもと輝かしい伝統を重ね、今日まで5700余名の有為な人材を輩出し、多くの同級生が県内外の諸分野・各界において活躍している。令和4年9月現在の在籍生徒数は110名（6学級、特別支援学級2学級を含む）であり、職員数21名の小規模校である。「ともに自己実現に精いっぱい努力する生徒の育成」を学校目標に、三つの柱である

頭を磨く・・・精いっぱい学習に取り組む生徒

心を育む・・・精いっぱい自分の良さを伸ばす生徒

体を鍛える・・・精いっぱい心と体を鍛える生徒

の育成を目指し、日々教師・生徒一丸となって取り組んでいる。

生徒は明るく素直で元気である。生徒会活動も主体的に行い、「百花結実～一人ひとりが協力し合える学校～」を目指し、朝のあいさつ運動やボランティア活動など生徒一人ひとりに役割が与えられるよう活躍の場が設定されている。



写真1 三つの柱のモニュメント

II 研究の概要

I 研究主題

租税教育を通して、税に対する関心を高め、正しい理解を深め、よりよい社会をつくろうとする生徒を育成する。

2 主題設定の理由

日本の総人口に占める高齢者の割合は増え続けている一方で、少子化も同時に進行しており、将来的に生産年齢人口の減少が益々深刻化していく中で、働く労働者世代の年金制度や医療保険・介護制度などの社会保障の負担が今後も大きくなり続け、財源の安定的な確保が更に困難になっていくことは容易に予想されることである。

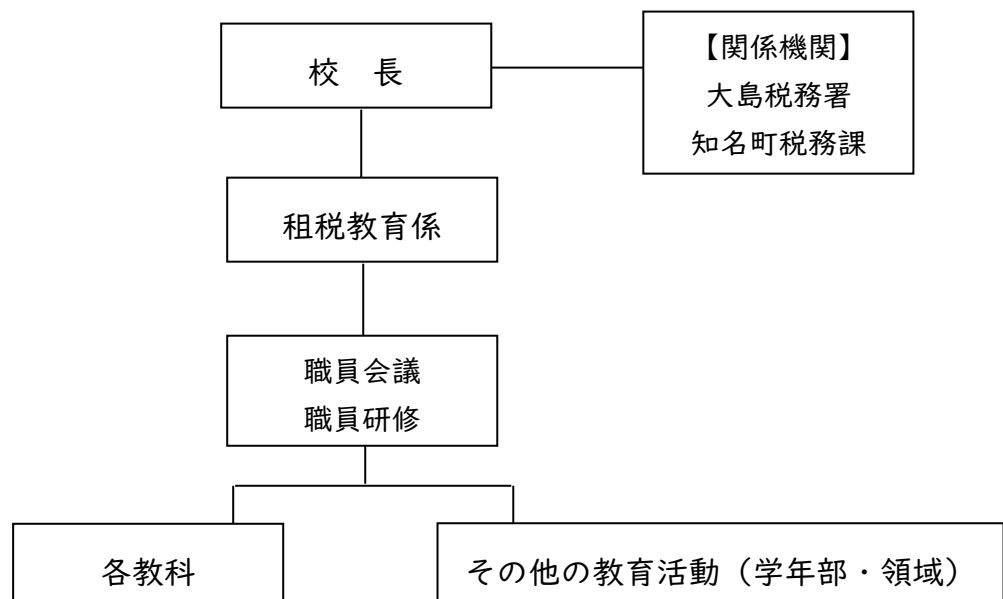
特に、この沖永良部島などの離島では、この問題が顕著に現れており、知名町の歳入のうち地方交付税交付金や国庫支出金、公債などによる依存財源が83%近くも占めており、町税などによる自主財源は17%ほどしかない状況である。

そういう状況の中、将来の島や知名町を担う生徒たちが租税の意義や役割を正しく理解し、国民の義務でもある納税を通して、国の在り方や行政活動に関する関心を高め、財政の中心的な資金源である「税」について、社会科の授業などを通して考える機会を持ち、さらには大島税務署の方々や知名町税務課の方々と連携し、より専門的な方々から学ぶ機会を設けることにより知識理解を深め、自分の生まれ育った町や島をこれからも残し、発展させていくために行動できる態度と資質を育成したいことから、「租税教育を通して、税に対する関心を高め、正しい理解を深め、よりよい社会をつくろうとする生徒を育成する」と研究主題を設定した。

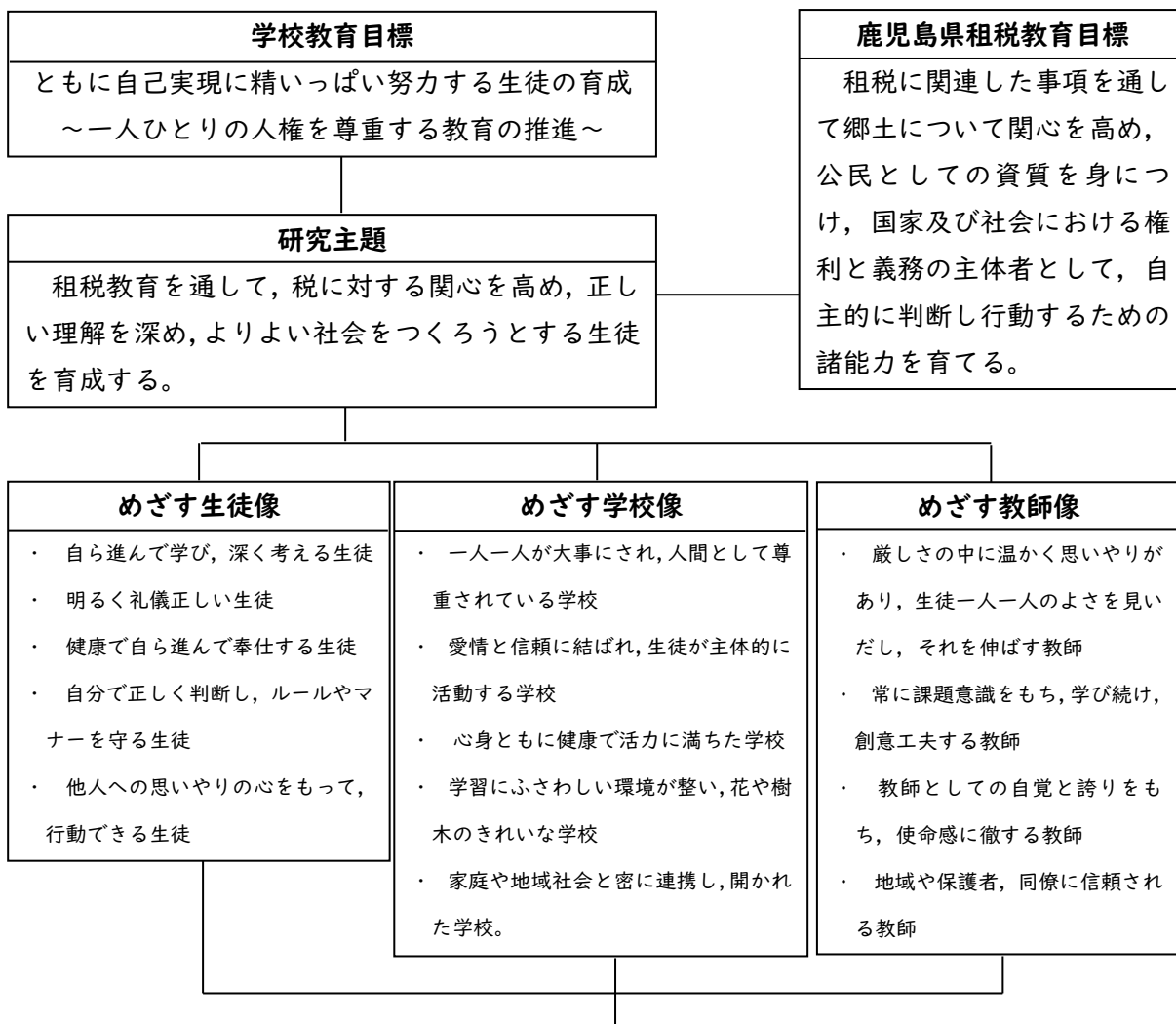
3 研究の目標

- (1) 租税の仕組みや特徴の理解を通して、租税に対する興味・関心を高める。
- (2) 租税の意義や役割、用途を理解させることで、社会を支える一員としての自覚をもたせる。
- (3) 租税教育を通して、社会に貢献しようとする意欲や態度を育成する。

4 研究の組織



5 租税教育全体計画



租税教育の重点
<ol style="list-style-type: none"> 1 租税の仕組みや特徴について、正しい知識を身につけさせ、租税に関する興味・関心を高める。 2 租税の意義や役割、用途などの理解を通して、社会を支える一人としての社会的な責任と義務について認識させる。 3 租税教育を通して、社会に貢献しようとする意欲や態度を育成する。

各教科	道徳	特別活動			家庭・地域
各教科の特性に応じて租税教育を推進する。	社会的な責任と義務について認識させる。 主体的に社会に貢献しようとする態度を育成する。	学級活動	生徒会活動	学校行事	家庭と地域と連携し、租税教育の推進を図る。
		学級や学校での生活をもとにして、集団の一員として望ましい資質と能力を育成する。	専門部活動や地域の活動に進んで参加する態度を育成する。	学校行事を通して奉仕の精神・心身の健全な発達を図る。	

6 研究の経過

(令和3年度)

4月	
5月	研究委嘱を受ける
6月	研究主題・計画の検討 町の税務課の担当者と「租税教室」の打合せ
7月	「租税教室」の実施
8月	「税に関する作品」(作文・書写)への応募
9月	「税に関する作品」(作文・書写)への出品
10月	研究主題・計画の決定
11月	税に関する授業【社会科】
12月	「税に関する作品」の展示発表
1月	これまでの取組確認・反省等
2月	来年度への取組確認と資料の整理
3月	初年度の反省と来年度に向けての計画

(令和4年度)

4月	本年度の計画策定
5月	町の税務課の担当者と「租税教室」の打合せ
6月	大島地区の税務署の担当者と「財政教室」の打合せ
7月	「租税教室」の実施
8月	「税に関する作品」(作文・書写)への応募
9月	「税に関する作品」(作文・書写)への出品 「財政教室」の実施
10月	「租税教育研究冊子」の作成 「租税教育研究会」への発表準備
11月	「租税教育研究会」への発表(報告)
12月	「税に関する作品」の展示発表
1月	
2月	研究委嘱成果のまとめ
3月	2年目の反省と今後の方向性の確認

Ⅲ 研究の実際

Ⅰ 令和3年度・4年度の租税教室

- (1) 令和3年度 租税教室 ～ 令和3年7月15日(木)実施 講師：知名町税務課職員 ～
1校時 3年生(46名), 2校時 1年生(48名), 3校時 2年生(31名)

【ねらい】

- ア 人の一生に関わる税金の種類について理解し、生徒の税に対する興味関心を高める。
イ 租税の意義や役割、徴収の仕方や仕組みについて、正しく理解させる。
ウ 国や市町村の税金の現状や使い道について理解し、納税者としての自覚を育てる。

本校では、令和2年度から三学年を対象とした租税教室を行っていたことから、令和3年度から、各学年の発達段階に応じた租税教室を行ってもらうように、知名町の税務課職員と事前打ち合わせを重ねながら実施した。そこで、主に1年生の租税教室では、【ねらい】の「ア 人の一生に関わる税金の種類について理解し、生徒の税に関する興味関心を高める。」こと、2年生の租税教室では、【ねらい】の「イ 租税の意義や役割、徴収の仕方や仕組みについて、正しく理解させる。」こと、3年生の租税教室では、【ねらい】の「ウ 国や市町村の税金の現状や使い道について理解し、納税者としての自覚を育てる」ことを中心に達成できるように租税教室を計画し、実施した。



【1年生の租税教室の様子】



【2年生の租税教室の様子】



【3年生の租税教室の様子】

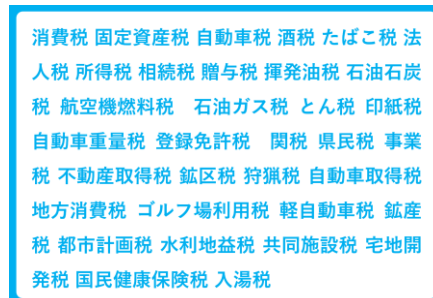
主な内容としては、1年生の租税教室では、人が生まれてから死ぬまでの一生の間にどれだけの税金が関わってくるのかについて説明を受け、自分の身の回りにどれだけの税金の種類が関わっているのかを学んだ。



【1年生の租税教室の内容①】



【1年生の租税教室の内容②】



【1年生の租税教室の内容③】

○ 令和4年度 租税教室（1年生） 生徒の感想

- ・ 私たちが生まれた時からたくさんの税に支えられていることを知って驚きました。今回の租税教室で、税のことについていろいろと知ることができて良かったと思います。
- ・ 私は、今まで何気なく買い物をするとき消費税を払っていたけど、講師の方のお話を聴いて、少し「税」に興味を持てました。これからは、何気なく消費税などを支払うのではなく、何に使われているのかなどを考えながら、払おうと思いました。
- ・ 今まで、「税」と聞いて、良い印象があまりなかったけど、今回の租税教室で学習してみて、税の大切さや使われ方について知ることができました。これからは、納税100%になればいいと思いました。
- ・ 「税金」と聞いて、あまりいいイメージは浮かばなかったのですが、今回の租税教室で学習してみて、税金がないとどうなるのかが分かり、税金の必要性を理解することができました。
- ・ 税金を納めることで、自分やみんなが暮らしやすく、より楽しく過ごすことができることが分かったので、私も大人になったら、しっかりと必要な税金を納めようと思いました。一生の中で、沢山の税金が生活に関わっていてびっくりしました。

○ 令和4年度 租税教室（2年生） 生徒の感想

- ・ 去年も租税教室で、税のことについて学習したので、税について知っていることが前回より多かったのですが、関心がありました。1年生の時は、税に関してマイナスなイメージしかありませんでしたが、税は私たちが思っている以上に生活に役立っているんだと改めて感じました。自分の親や知名町の大人の方たちが、税金を払ってくださっているから、私たちは何かあったときでも安心して暮らしていくことができているので、大人の方たちに感謝したいです。また、税金は私たちの暮らしに欠かせないものなんだと思いました。
- ・ 私は、払われた税は私たちの生活を豊かにしていることを知り、前までは「お金を取られていく」という嫌なイメージがあったけど、今では税は「なくてはならないものなんだな」と思うようになりました。そして、税のことについて「もっと知りたい」と興味が出てきました。
- ・ 今回の租税教室では、税のおかげで生活の負担が少なくなっていることをより実感しました。また、税のルールなどについても新しく知ることができました。

○ 令和4年度 租税教室（3年生） 生徒の感想

- ・ 1年生や2年生で習ったことを復習しながら、また新たに税について知識を深めることができました。もう少しで16歳になり、働くこともできる年齢になるので、もっと税について知りたいと思いました。
- ・ 私は、税の作文とかで税について少し知っているつもりでしたが、思っていたより税の仕組みについては知らなかったです。私たち学生は、まだ今は「税」に少ししか関わっていないけど、これから大人になるにつれて沢山の「税」に関わることになるので、「税」への関心を持っていきたいです。
- ・ 改めて「税」について考えることができたし、昨年よりも詳しく知ることができました。あと何年かしたら、自分たちも納税者として税金を払っていかないといけない時が来るので、今回学習した内容を生かしていきたいと思います。

(2) 令和4年度 財政教室 ～ 令和4年9月7日(水)実施 3・4校時 3年生(31名)
講師：九州財務局鹿児島財務事務所 職員

【ねらい】

- ア 日本の財政の現状を理解するとともに、私たちの生活の中に税がどのように使われているのかを理解させる。
- イ 体験的な活動を通して、日本の財政について話し合い、税の必要性について理解させる。
- ウ 納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てる。

【実施内容】

- ① はじめの言葉
- ② 講師紹介
- ③ 九州財務局鹿児島財務事務所 職員講話
- ④ グループワーク
(タブレットを用いたシミュレーション学習)
- ⑤ グループの発表
- ⑥ 振り返りシートの記入
- ⑦ 終わりの言葉



【財政教室の様子】

はじめに、九州財務局鹿児島財務事務所の職員の方から、財政学習教材「日本の財政を考えよう」というパンフレットとプレゼンテーションソフトを使用して、国の歳入や歳出など財政の仕組みや現在の日本の財政状況など財政に関する詳しい説明を受けた。租税教室で学習した内容を思い出しながら、国がどのようにしてお金を集め、どのように使っているのかなどを再確認していた。また、国の借金の状況について説明をしていただいた際に、生徒たちは想像以上の借金の多さや社会保障費の増加が主な原因であることに、特に関心を示している様子であった。

説明を受けた後は、四人ごとに6つの班に分かれて、グループワークを実施した。今回のグループワークは、タブレットを用いたシミュレーション学習で、自らが財務大臣になり、グループのみんなで国の予算案を作成し、発表を行った。各班は、それぞれの夏休みの課題「将来のわが町のすがた」を見せ合いながら、全員のアイデアをもとに自分たちで「将来こんな国になったらいいな」という、それぞれテーマを設定し、タブレット内のエクセルを用いてテーマに沿うよう予算について話し合いをしていた。また、ワークシートには、自分たちのグループの予算案の中で「なぜ、そのように考えたのか」理由を考えながら書き込みを行っていた。



【講話を聴く生徒たち】



【予算について話し合う生徒たち】

予算案の作成については、歳出・歳入のどちらも編集を行うことができ、歳出は「社会保障（年金・医療・介護・子ども子育て・生活保護ほか）」、「地方への交付金」、「公共事業」、「防衛」、「教育」、「その他」、「借金返済」のそれぞれの項目で予算の増減を考えた。また、歳入は「所得税」、「消費税」、「法人税」、「その他の税収（ガソリン・酒・たばこなど）」のそれぞれの項目で予算の増減を考えた。

3班の予算案を例に挙げてみると、3班の予算案のテーマは、「AIを活かした最先端の医療」で、特に先行投資して最先端の医療を開発していくことで負担となっている社会保障費の年金を減額できるのでは、という考えであった。そのため、歳出では社会保障の「医療」の項目で10%増額、その他「科学技術研究」の項目で5%増額というように、実際に実行するには難しいものの、テーマに沿った増額を行っていた。歳入においても「消費税」や「法人税」「その他の税収（ガソリン・酒・たばこなど）」を増額することで最先端の医療を開発するための財源を確保しつつ、これ以上借金を増やさないようにしようとしていた。また、「法人税」を5%増額するだけで1兆円の税収入が増加することや借金返済のための税収入を確保するためにみんなで平等に負担していく必要があるという考えで「消費税」を増額するなど様々な視点で予算案を作成していた。結果として、借金の総額が増えることになってしまったが、これらのことから、自分たちの実現したいテーマに沿って、予算案を作成することの難しさを知ることができたと考えられる。

6つの班すべてが自分たちで作成した予算案について発表し、それぞれ特色あるテーマであったため、生徒たちが自ら他の生徒の意見に耳を傾け、税への関心を高めることができた。

グループワークシート【財務大臣になって予算を作ろう!】

3 班

1. 予算案のテーマを決めよう。 (例) “高齢者に優しい社会”、“教育の充実” など

AIを活かした最先端の医療

2. グループで理想の予算を考えよう。グループで話し合った内容(増減した理由など)をシートに書き込みながら進めてください。

歳出予算	歳入予算
<p>① 社会保障 合計 ※タブレットの結果をメモしよう</p> <p>□増額()% □現状維持 □減額()%</p> <p>年金</p> <p>□増額()% □現状維持 □減額(5)%</p> <p>理由: 少子化負担を介護や医療の伸びを受け取ることで減らさる。</p> <p>医療</p> <p>□増額(10)% □現状維持 □減額()%</p> <p>理由: AIを取り入れるため。</p> <p>介護</p> <p>□増額()% □現状維持 □減額()%</p> <p>理由:</p> <p>子ども・子育て</p> <p>□増額()% □現状維持 □減額()%</p> <p>理由:</p> <p>生活保護ほか</p> <p>□増額()% □現状維持 □減額(5)%</p> <p>理由: “生活保護”を利用し 「お金がない」と思われる人はいらぬように。</p>	<p>② 地方への交付金</p> <p>□増額()% □現状維持 □減額()%</p> <p>理由:</p> <p>③ 公共事業</p> <p>□増額()% □現状維持 □減額()%</p> <p>理由:</p> <p>④ 防衛</p> <p>□増額()% □現状維持 □減額()%</p> <p>理由:</p> <p>⑤ 教育</p> <p>□増額()% □現状維持 □減額(5)%</p> <p>理由: 教科書の削減と部費の削減、医療に有利。</p> <p>⑥ その他</p> <p>□増額(5)% □現状維持 □減額()%</p> <p>(a) 科学技術研究</p> <p>□増額 □現状維持 □減額</p> <p>理由: 医療に取り入れるためのAIの研究を有利に。</p> <p>(b) 食料安定供給</p> <p>□増額 □現状維持 □減額</p> <p>理由:</p> <p>(c) エネルギー対策</p> <p>□増額 □現状維持 □減額</p> <p>理由:</p> <p>(d) 国際協力</p> <p>□増額 □現状維持 □減額</p> <p>理由:</p>
	<p>① 所得税</p> <p>□増額()% □現状維持 □減額()%</p> <p>理由:</p> <p>② 消費税</p> <p>□増額(5)% □現状維持 □減額()%</p> <p>理由: 軽減税率を減らし、みんなから平等に税金を徴収する。</p> <p>③ 法人税</p> <p>□増額(5)% □現状維持 □減額()%</p> <p>理由: 5%増額で1兆円増え、1兆円増えれば税金が減るから。</p> <p>④ その他の税収(ガソリン・酒・たばこなど)</p> <p>□増額(20)% □現状維持 □減額()%</p> <p>理由: 酒やたばこを減らすのはいいけど、個人自由だから、その税金で借金を返す。</p>

【ワークシート】

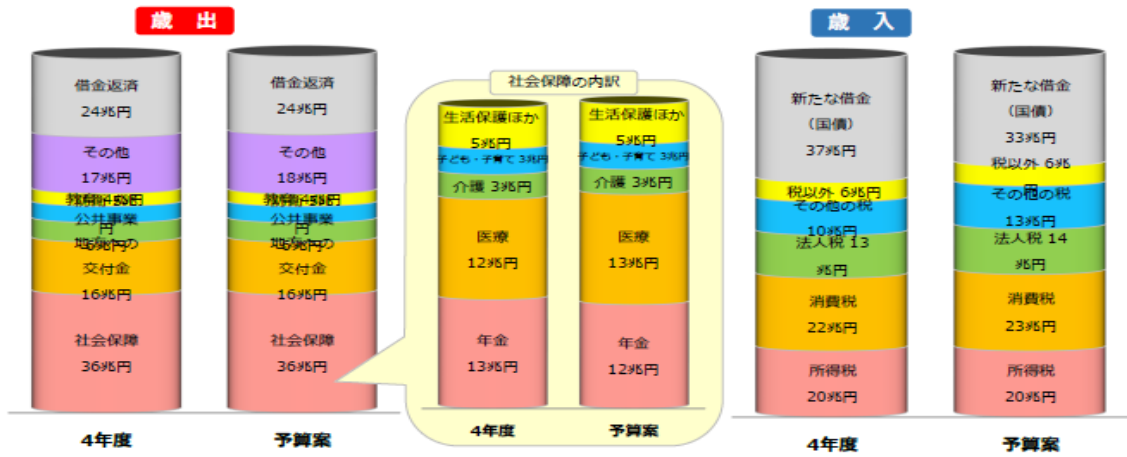
財務大臣になって予算を作ろう！

歳出										3班	
社会保障	内訳					地方への交付金	公共事業	防衛	教育	その他	借入金返済
	年金	医療	介護	子ども・子育て	生活保護ほか						
現状維持	5%減	10%増	現状維持	現状維持	5%減	現状維持	現状維持	現状維持	5%減	5%増	現状維持 (24兆円)

歳入					予算総額	
所得税	消費税	法人税	その他の税	税以外の収入	4年度	予算案
現状維持	5%増	5%増	30%増	現状維持 (6兆円)	108兆円	109兆円

予算案では借金の総額が
9兆円 増えます

※変更前の予算では、借金の総額は13兆円増えます



【タブレットで制作した予算案】



【予算案を発表する生徒たち】

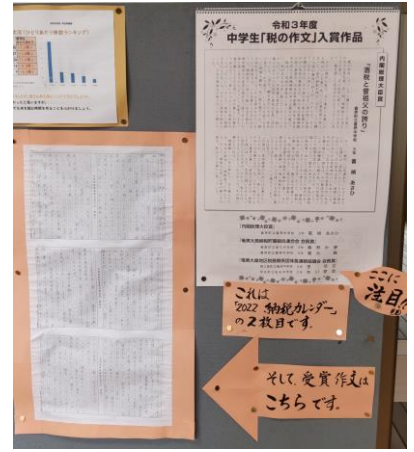
○ 令和4年度 財政教室 生徒の感想

- ・ 私が特に驚いたところは、国の借金が37兆円もあり、他の国と比べて一回り多かったところです。国の借金を次世代の私たちが負担すると聞いて「何で」ととても疑問に思いました。私たちが借金した訳じゃないのに関係の無い私たちが払うべきではないと思いましたが、生活などで暮らしやすくなっていたり、多くの支援を受けていたりしていたことを知り、授業後は私たちが負担するべきだと思えました。これからはもっと財政の事について知り、他の人にも興味を持ってもらうために、自分でも調べてみようと思いました。
- ・ 今まで知らなかったことを沢山知ることができて良かったです。特に面白かったことは、グループ活動です。みんなで歳入や歳出を考えたり、テーマを決めてどこの金額を増やすかなどを考えたりすることは、とても楽しかったです。また、他のグループの発表を聴くことも違う意見を知ることができて面白かったです。今日の授業で財政の事に興味を持つことができたので、これからもっと詳しく調べてみたいです。
- ・ 財政を学ぶ機会がなかったので、今回はとても勉強になりました。自分はまだお金を稼いだことはないけど、将来はしっかりと税金を納め、少しでも借金を減らしていきたいなと思いました。

3 税に関する作品

夏休み課題として国語科から「税に関する作文」，「税に関する習字」の作品募集を選択制で行っている。

令和3年度は，「税に関する作文」で奄美大島地区税務関係団体長連絡協議会会長賞を受賞した生徒もおり，租税教室での経験を通して，税に関する興味関心が高まり，自分なりの考えを述べることができる生徒が増えたと考えられる。その結果，令和4年度も例年と比べると，「税に関する作文」や「税に関する習字」の作品に取り組む生徒が多くなっており，生徒の成長が感じられる取組となった。生徒の作品を紹介する。



「税の作文」入賞作品の掲示

○ 「税に関する作文」生徒作品

私たちの暮らしと税金 (二年生 女子生徒)

私たちが生活する上で、税金はどのような使われ方をしているのでしょうか。私は、税について話を聴く授業や、この作文を機に税の使い道について調べることにしました。

みなさんは、買い物をしたときにかかる消費税について気にかけていたことはありますか。私はあります。買った物の代金は百円なのに消費税がかかるので十円を余分に払わないといけません。他にも、約五十種類の税金があるそうです。それは、一体何に利用されているのでしょうか。一番身近なもので言うと、家庭や学校で使用するものなどです。家庭では顔を洗ったり、歯を磨いたり、トイレを使用したり、お風呂に入ったりするために必要な水を毎日使えるように、上下水道の整備に税金が使われています。学校で使用するものでは、授業で使う教科書や、最近配布されたタブレット、理科室にある実験器具、体育用具などがあります。また、みんなが安全に通学・通勤ができるように、道路を整備するのにも税金が利用されています。

このように、私たちが当たり前に生活したり、安全に通学して学校生活を送ったりしているのは、税金のおかげだと思います。

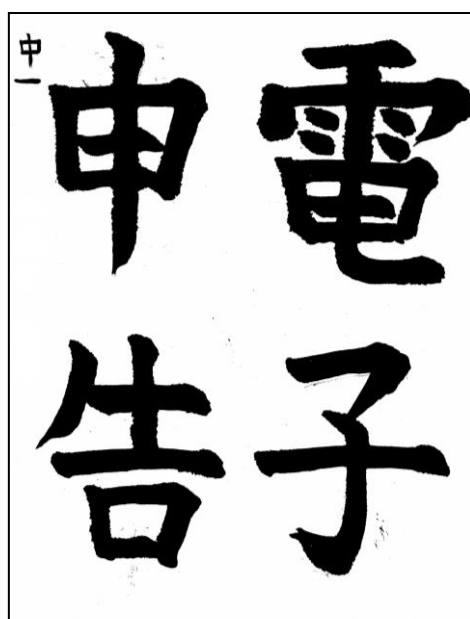
また、医療でも税金が利用されています。風邪をひいたとき、怪我をしたとき、病気になったとき、病院で診察や処置をしてもらうとお金がかかります。かかった金額の一部を税金が負担してくれているのです。新型コロナウイルス感染症に関しては、検査や治療の費用を税金が負担しています。さまざまな面で税金が利用され、私たちの生活を支えてくれているのです。

しかし、「税金は無駄だ」と、税金に関して好意的ではない人もいます。もし税金がなくなったらどのような支障が出るのでしょうか。一つ目は、救急車が有料になることです。事故に遭ったときなどの緊急のときに呼ぶ救急車が有料になると、かなりのお金がかかります。だから、救急車を呼ぶことができず命の危険にさらされる人が増えてしまうかもしれません。二つ目は、義務教育である小学校・中学校も有料になります。机や椅子、教科書など、学校生活に欠かせないものも有料になるので、学校に通えなくなる人も出てきます。

税金がなくなったら、商品が安くなり、給料も上がるので、税金なんて必要ないという人もいるかもしれませんが、でも、税金がなくなったら、私たちが今まで安全に暮らしていたのとは真逆で、厳しい生活を送らなはいけなくなりません。

このように、税金は私たちにとって、「大切なもの」です。私も今まで税金にはいい印象がありませんでしたが、税金について知っていくうちに、「税金ってこんなにも私たちの暮らしを支えてくれていたんだ」と思うようになりました。当たり前のように安全で安心した生活は税あつてのことなので、大人になったらしっかりと納税していきたいです。

○ 「税に関する習字」生徒作品



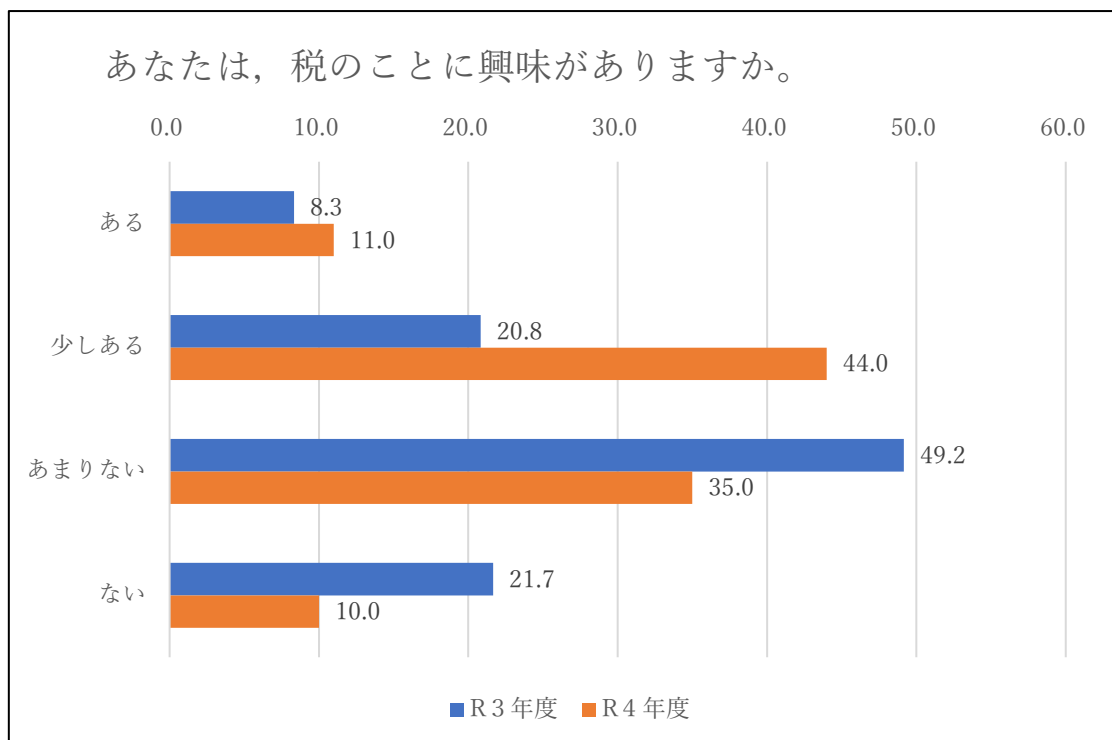
IV 研究のまとめ

I アンケート結果の分析

租税教育を経て、生徒の意識や考えがどのように変容していくかを見取るため、令和3年度と令和4年度の租税教室の後に税に関するアンケートを2回に渡って実施した。

(1) あなたは、税のことに興味がありますか。

	ある	少しある	あまりない	ない
R3年度	8.3%	20.8%	49.2%	21.7%
R4年度	11.0%	44.0%	35.0%	10.0%

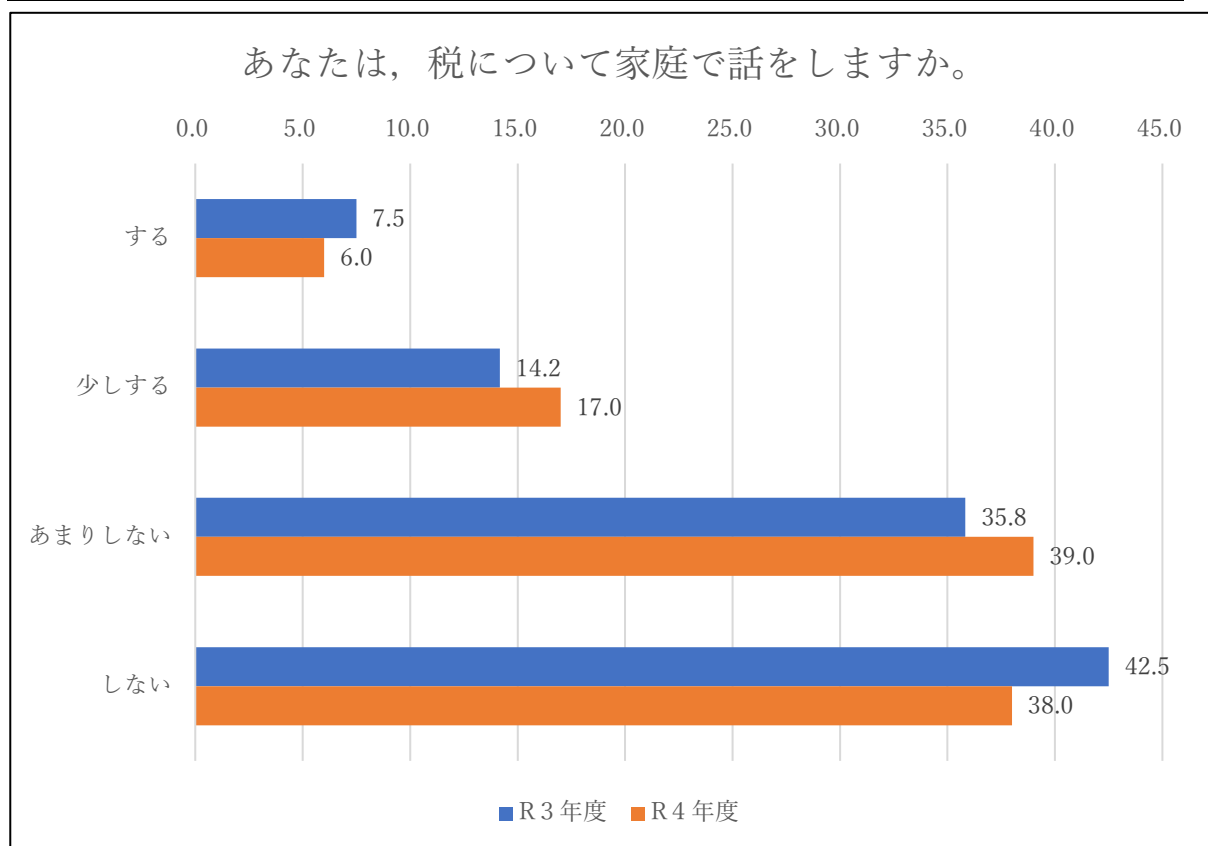


【考察】

令和3年度の租税教育開始時には、全体の7割以上の生徒が税に対して興味・関心がない状態であった。学年の発達段階に応じた租税教室を重ねていくことで、税に対する知識が増え、興味・関心があると答えた生徒が半数以上に達した。租税教育や夏休み課題の「税に関する作品」の作成を機に、税について多くの知識を得ることで、興味関心が高まったと考えられる。

(2) あなたは、税について家庭で話をしますか。

	する	少しする	あまりしない	しない
R3年度	7.5%	14.2%	35.8%	42.5%
R4年度	6.0%	17.0%	39.0%	38.0%

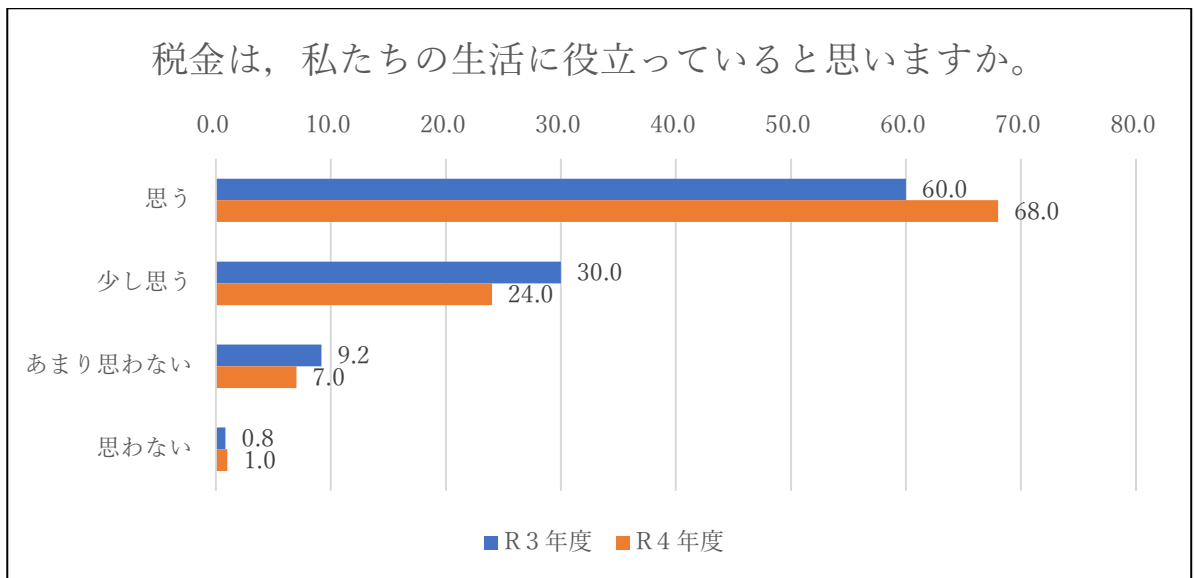


【考察】

(1) のアンケート結果からも分かるように、生徒の税に対する興味・関心は高まったが、家庭で税についての話をする生徒はそれほど大きく増えなかった。やはり税に対する「否定的なイメージ」や「難しいイメージ」などが根強く残っており、気軽に家族と税について話をする機会が設けられなかったことが原因であると考えられる。

(3) 税金は、私たちの生活に役立っていると思いますか。

	思う	少し思う	あまり思わない	思わない
R3年度	60.0%	30.0%	9.2%	0.8%
R4年度	68.0%	24.0%	7.0%	1.0%

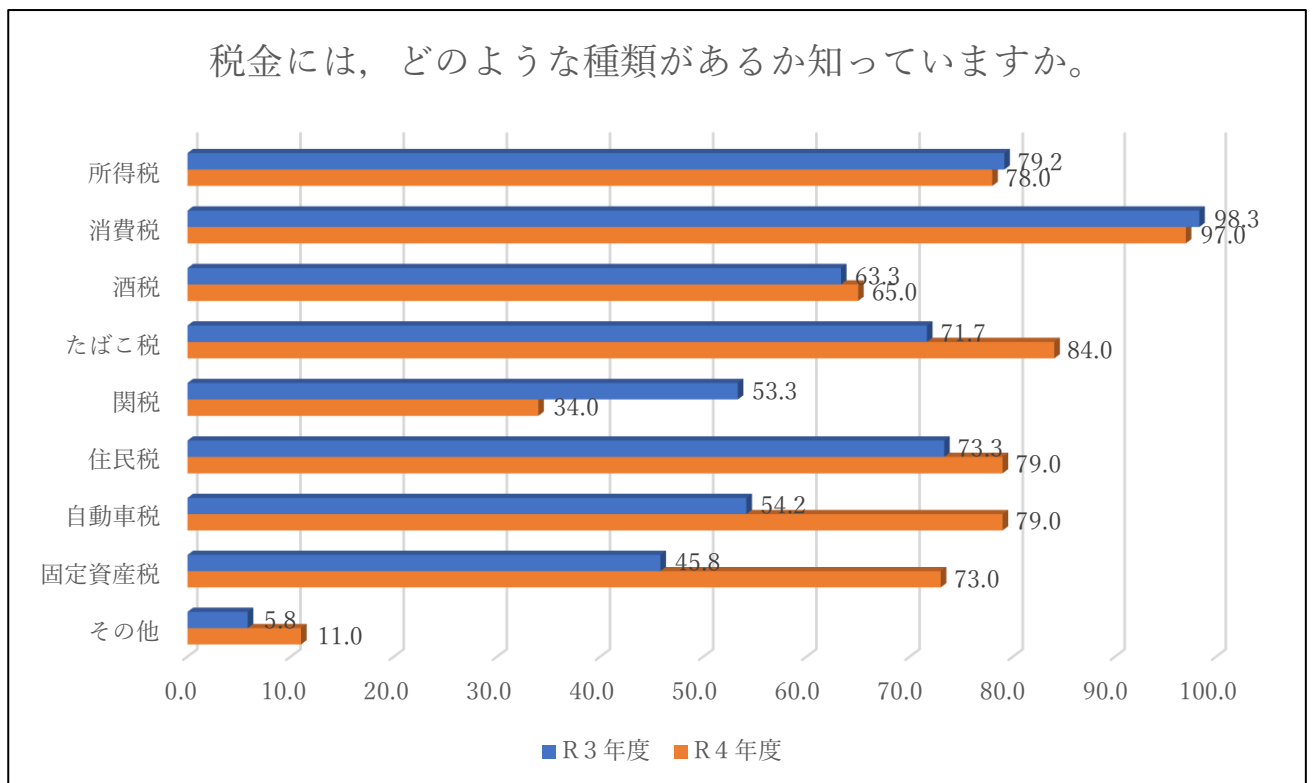


【考察】

租税教育開始時は、税に対する興味・関心が低かったものの、9割近くの生徒が、税金が私たちの生活にもたらす恩恵を感じていたことが分かる。学年の発達段階に応じた租税教室を重ねていくことで、税に対する知識が増え、税金によって教科書が無償で配付されていることや救急車や消防車などを緊急時に呼ぶことができるなど税金の恩恵を感じる場面をいくつも答えることができるようになり、恩恵を感じている生徒が増えている。

(4) 税金には、どのような種類があるか知っていますか。

	所得税	消費税	酒税	たばこ税	関税	住民税	自動車税	固定資産税
R3年度	79.2%	98.3%	63.3%	71.7%	53.3%	73.3%	54.2%	45.8%
R4年度	78.0%	97.0%	65.0%	84.0%	34.0%	79.0%	79.0%	73.0%

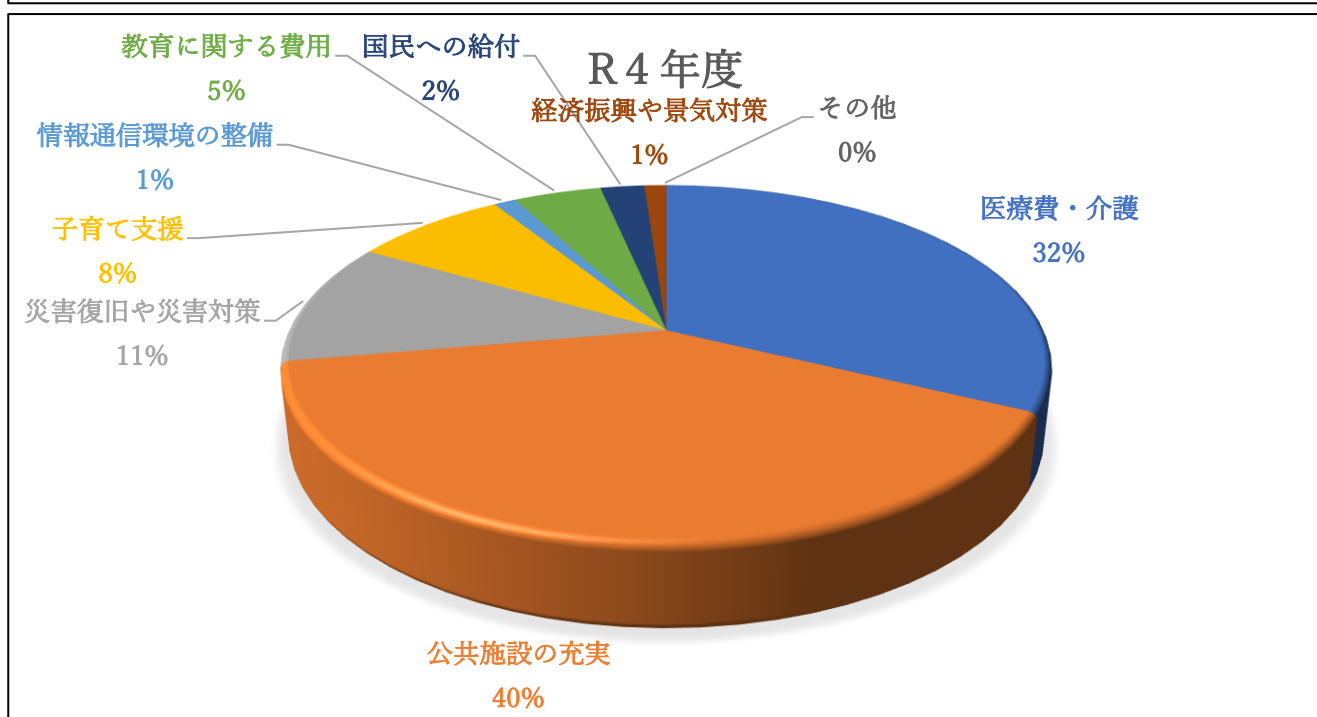
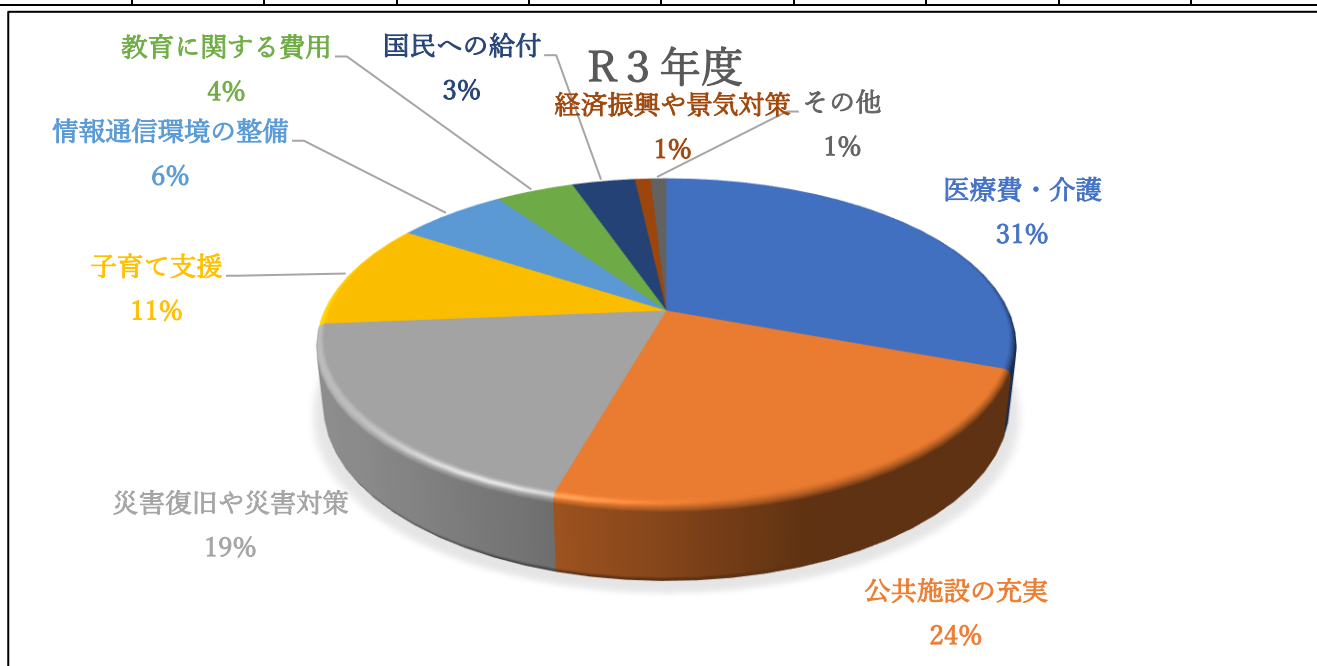


【考察】

租税教育開始時は、消費税以外の税金の種類を知っている生徒は少なかったものの、学年の発達段階に応じた租税教室を重ねていくことで、税に対する知識が増え、様々な税金の種類があることを理解し、どのようなものに課される税なのか説明できる生徒が増えている。

(5) 今の知名町で、税金をどこに一番使った方が良いと思いますか。

	医療費・介護	公共施設の充実	災害復旧や災害対策	子育て支援	情報通信技術の充実	教育に関する費用	国民への給付	経済振興や景気対策	その他
R3年度	31%	24%	19%	11%	6%	4%	3%	1%	1%
R4年度	32%	40%	11%	8%	1%	5%	2%	1%	0%



【考察】

租税教育開始時は、知名町の課題を解決するために税金を「医療費・介護」「公共施設の充実」「災害復旧や災害対策」の順に多かったが、学年の発達段階に応じた租税教室を重ねていくことで、「公共施設の充実」「医療費・介護」「災害復旧や災害対策」の順に変化し、特に「公共施設の充実」が最も多くなっている。これは、租税教育により生徒の「納税＝行政サービス」の意識が強まり、知名町を活性化させるために様々な「行政サービス」を行える「公共施設」を充実させていくことが大切であると考えた生徒が増えたのではないかと考えられる。

2 成果と課題

- 多くの生徒が、租税教室や財政教室、税に関する作品づくりを通して、租税について正しい知識と理解を広げ、深めることができ、納税の義務や税金の使い方などに主体的に考えることができた。
 - 租税に対する関心が高まり、自分たちの生活の中で受けている恩恵に気づき、税金は無くってはならないものだと感じ、この税金をより良い知名町を創りあげていくためにはどうしたら良いかという視点が生まれ、社会参画への意識を高めることができた。
 - 租税と身近な生活との関わりを意識した指導の中で、学校の中にある身の回りの公共物が税金によってまかなわれていることを知り、ものを大切にする態度や資源を大切にする態度が見られるようになった。
-
- 租税教育を社会科や国語科だけでなく、他の教科や特別活動や道徳・総合的な学習の時間など教科横断的な取り組みができるように、教育課程の工夫が必要である。
 - 校内における租税教育を、積極的に保護者へ連絡する機会が少なく、家庭への啓発活動が不十分であった。生徒が理解し、学んだことを地域に発表し、学校から地域や家庭に発信できるような機会を増やしていきたい。
 - 今回の研究では、租税教室は全学年対象に実施することができたが、財政教室は、場所・人数・時間・ツールなどの理由から3年生だけの受講となってしまった。生徒の意欲を引き出し、高めることができる取組であり、将来の知名町を考えるきっかけとなる取組であるので、全生徒が受講できる工夫が必要であると感じている。

V おわりに

令和3年度から4年度までの2年間にかけて、鹿児島県租税教育研究委嘱校として、本校の実態を踏まえ「租税教育を通して、税に対する関心を高め、正しい理解を深め、よりよい社会をつくろうとする生徒を育成する。」を研究主題として掲げ、研究・実践に取り組んできた。この2年間の取組の成果を基盤として、これからの世界を担う本校の生徒たちが、主体的に自ら考え、他者と協力しながら、よりよい社会・よりよい知名町を目指して生きていこうとする公民としての資質向上の一助になれば幸いである。

最後に、鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、大島税務署、知名町税務課、その他関係機関の方々には、コロナ禍で制限の多い社会情勢でありながら、足しげく本校に出向いてくださり、懇切丁寧な御指導と御協力を賜りました。お陰様で本研究を無事に終えることができたことを、心から御礼申し上げます。